

〔釈文〕

庚申年富士山參詣群集之図

富士山略記

抑当御山ハ三国第一

万国無双の靈山にて

諸神出世の仙元境たり

故に富士仙元大神と称す

祭る所三座にして中央ハ

天照大神の神孫地神第三代

瓊瓊杵尊と申奉る

嘗て大神の神勅を

奉じて高天ヶ原より豊

葦原中国日本といふに

天降り天が

下を知し召

大山祇

命の女木花開耶姫命を娶りて

同四代彦火々出見尊を生しめ

玉ふ故に大山祇木花開耶姫の二神

左右として以上三柱の神を合せ崇て仙元

大神と祭る是 本朝守護の靈神にて

安産を守り又ハ蚕繭の道を護るの御神

なれハ別して婦人ハ尊信做し奉るへき

也又此御山往昔天地開闢の時自然

湧出の靈峰たれとも 人皇五代

孝照天皇の御宇迄ハ雲霧繁く未た天地の

氣滞清からざる故に世人拝する緯を得ず然るに

同六代孝安天皇九十二年庚申の夏漸雲

霧始て晴万国の貴賤これを

奉拝すと云或ハ同七代

孝靈天皇五年近江

国に忽地一夜に湖水湧

出し同日に駿河国に富士山

出現せしとも亦ハ麓にある八海ハ 則

御山湧出の跡なる共云り夫より同十二代

景行天皇五十二年日本武尊

東夷御征伐の御時 則三神垂

跡の御山なればとて是を勸請あり

けるが此御山ハ南景に出現

たれば北方子の方より詣人

拝仰すべしと仮に華表を

御建立あり茲に始て神威を

示し三国第一山の額を掛為ふ

是や蓬萊の仙境にて壘外の

靈場祈るに利益潔然として神徳

歌々たれば誰かこの御神を信ぜ

ざらんや仰ざらんや

応需 藤村秀賀謹誌